



退職者こだま会報

No. 20



からだを動かしましょう!!

総会開催御案内

「退職者こだま会」

第七回定期総会

・とき

六月二十日(金)

午後二時～四時

・ところ

横浜市中区海岸通り一～一

横浜市港湾労働会館

(電話)〇四五(201)三八四二

本年度退職された方も当日、来場、ご入会大歓迎。お誘い合わせの上、ご出席ください。

—◇—◇—◇—

なお、ご出席の方には交通費(車代)として図書券を贈呈します。

また、総会終了後引き続き会場向い側の第二港湾合同庁舎8階食堂で軽飲食ですが懇親会(無料)を開催いたします。

「退職者こだま会」ならではの心温まる一日にしたいのです。

「加入のおすすすめ、と
会費納入ご案内」

「退職者こだま会」へ加入ご希望の方には、規約・入会申込書、会費振込用紙などお送りします。お申込ください。

・所在地

〒231 横浜市中区本町四の三七
神奈川県職労事務局内

「退職者こだま会」宛
(電話)〇四五(201)一一一一
(内線七九五三)

・振替口座
〇四五(222)三一七九

横浜銀行県庁支店
普通預金口座番号

八七八一三九
神奈川県労働金庫本店

普通預金口座番号

一二四八六四二
郵便振替口座
横浜五一六六五八〇

会費関係

(1)入会金 一、〇〇〇円

(2)終身会費 二〇、〇〇〇円
なお、年会費二、〇〇〇円もあります。

第七回定期総会

議案

(二～五頁参照)

第七回定期総会報告・議案

一九九〇年(平成二年)度

経過報告

この一年は、いろいろな課題を抱え、解決へ向けて努力し乍ら苦闘した年であった。以下その概要をのべる。

○執行体制維持への苦闘

退職後の個人生活は個人差はあるものの、寄る年波は家庭を含めいろいろな障害を引き起こす。

当会も新しい意気込みで執行体制をスタートしたものの役員本人を含め家族にも及ぶ疾病による災難や勤務による都合などで月一回の役員会も欠席者が相次ぎ執行体制は勿論、これに付随する委員会の開催や機能が危ぶまれるなど、再三にわたる苦しい運営を強いられた。しかし、代表幹事・事務局長を中心に動ける役員が結束を強め、支障の少ない幹事の応援や会員の協力で、会員に対する事務に支障のないよう即応体制で切り抜けて来たといえる。

例えば、明田事務局長が十一月に急病で倒られたので、「歴史散歩の会」の

世話人であり、事務に堪能な小野田ふで子氏のボランティア協力を得て事務処理が加速されたことなどである。

また事務局が開設されたため、毎週火曜日を原則、出勤日として事務処理に当たっている。お陰でこの作業もようやく軌道に乗ってきたという感がする。しかし相変わらず少数幹事の運営が続いているのである。

○全労済火災共済契約更新変更に伴う対応と事務処理

団体加入の火災共済は毎年一月に加入者契約更新を行うため、従来は、一月中に在職者は勿論、退職者も含めて所定日に各行政センターに於て全労済職員が出向して窓口受付を行っていた。この場合当退職者会としては一昨年から役員が立合っていたが、実態の把握には程遠いものがあつた。

それは、退職者も元職場に依頼して手続を行っていたためである。

ところが、本年からは、全労済は事務効率を高めるため、各個人の予貯金口座から今後五ヶ年間にわたり、掛金を振込徴収することに手続が変更された。

この結果当会に対しては、当退職者会扱として四百余名の手続と事務処理の依頼があつた。

そこで、青木事務局長と小野田氏が中心となって、その実態把握と事務処理が進められた。

その選別作業の結果、四百余名のうち当会員は約半数を若干上廻る程度と判明、このためこの非会員について、入会要請を行った結果約六〇名が入会された。残りの人は、殆んど意志表示もなかったたので、引続き契約継続希望者に対しては、事務経費として一人二千円納入方依頼したところ約三〇名の希望があり、事務処理を促進した。

それ以外の人に対しては、未処理とされていたが、契約期日切れも迫っていたので、県職労を通しての要請に基づいて協議の結果、今回に限り事務処理を行うことにした。若干の人は当会に入会せず、個人加入へと切替を希望された。それにして、この経過を通じて感じたことは、自己中心主義なドライな人達が多いことが判り失望した。

また、今回の契約更新は今後五ヶ年間にわたり各個人予貯金口座からの掛金振込と共に割戻金についても口座振込まれるなど便利な面が多い。

一方、調査の結果、個人加入の場合は、毎年郵便振込によって、その都度掛金の納入が必要となる反面、割戻金について

は、通知と手続が行なわれないことなど、団体扱の有利性が判明した。

このことは、あと五ヶ年経過すると同じ事務処理が再現することを今から知っておく必要がある。

○「趣味の会」のうち「歴史散歩の会」発足

会報第18号に記載のとおり、当会の発足の一つの動機が、昭和60年の公的年金一元化に伴う改悪に対応し、退職者の将来に対する警鐘とこれに対する一つの壁を築くことであつた。

しかし、その後の状況を見ると、当会員を含む退職員職員の大部分が在職中からの準備や、土地ツ子が多く、生活環境にも恵まれていること、そして、イデオロギー的でなく、自己中心的に生活を樂しむ層が多いことが分かつた。

つまり、退職者会は、趣味など退職者の生活を樂しむ場にしてほしいという希望が多いことが分かつた。

そこで先の総会でも趣味の会に力を入れることを運動方針に盛り込んだものの実際に機能が動き出すことに幾多の困難が横たわっていた。

このような時に、歴史に造詣の深い会員荒井太郎氏から協力の申し出があり、このご好意を受けて、九月二十五日に、県自治会館において第一回歴史教室(史

(次頁へつづく)

(前頁からつづく)

話を開催、約20名の参加を得、次いで十月四日、現地での第一回「歴史散歩の会」を鎌倉で開催したところ、当初の申込を上回る臨時参加者も加わり、総勢二十余名という盛況を呈したのである。それ以後、第二、第三回の歴史教室及び第二回歴史散歩の会を開催しているが、回を重ねる度毎に参加者が増加している。

そもそも趣味は、ストレスを解消し、脳に刺激を与えるなど、高齢者の保健には好影響があるが、「歴史散歩の会」は、更に足腰の鍛練などが加わり一石数鳥の効果期待されている。

このほか、俳句の会についても同氏等のご協力で準備と検討に着手をしているところである。

○当会員入会状況：五百名へあと一歩

昨年は入会勧誘が総会後になったため第六回総会時には会員三百五十六名であった。しかし勧誘後も入会状況は芳しいものとは言えなかった。

その原因を推察するに、現在までの退職者は、住宅事情においても、年金、退職金についても一般に比し恵まれているため、退職者会に対する関心も薄く、自己中心主義といえるのは前途のとおりである。また、組合が昇給、昇格に努力し

たため、一般職員の場合、その多くが管理職として退職期を迎えることが多い。このことが逆に労働者意識が乏しくなり、労働組合を敬遠し、イデオロギー的なことから逃避する傾向が強い。

このようなことから、当会に対する認識も乏しく評価も薄いと認めざるを得ない。

このため、本年は在職中に加入勧誘を進めるため、三月初旬県職労、各支部長にお願いして、在職中の三月末日までに入会勧誘のための書類を退職予定者あて手交をお願いした。これも試行錯誤の一手段としての試みであるが、少くも会員一千名になるまでは苦しい道標が待ち受けているといえる。

以上のような状況のもので、この一年間の入会者と含め、三月末現在の会員は四百三十名(年会費百一名、終身会費三百二十九名)である。

なお、年会費から終身会費への切替増加が目立ってきている。

その他

この一年間に於ける全国的行事としては、県職労からの補助を得て八月六日広島市に於ける九〇年原水爆世界大会に二名、また、九月一日岡山市で開催された、第四回全国高齢者大会に一名参加することができた。

事務局だより(主な行事など)

(1990.4.1~1991.3.31)

年月日	項目	年月日	項目
1990.4.17	4月定例幹事会	10.11	10月定例幹事会
4.26	会報第16号編集会議	11.13	全労済事務打合
4.27	四役会議今後の日程打合	12.1	会報第18号発行
5.8	5月定例幹事会、第6回総会打合	12.20	12月定例幹事会
5.22	総会通知発送	12月上旬	全労済火災共済事務処理に追われる
5.29	総会準備及び打合	~1月下旬	
~30		1991.1.17	四役会議
6.1	第6回定期総会 於横浜港湾労働会館	1.18	第2回「歴史教室」於自治会館
6.12	四役会議、総会反省	1.24	1月定例幹事会
6.21	6月定例幹事会	2.14	第3回「歴史教室」於自治会館
7.3	四役会議、総会総括	2.23	県職労現業退職者の集い 於箱根嶺水苑 幹事1名出席
7.12	7月定例幹事会及び加入申込書発送	3.1	会報第19号発行
7.20	「歴史散歩の会」発足 於自治会館	3月上旬	県職労各支部へ退職予定者への加入促進書類を持参(300部)
8.4	原水爆禁止世界大会 於広島市 2名出席	~中旬	
8.9	8月定例幹事会	3.22	湘南支部主催「退職予定者の集い」幹事出席
9.1	第4回全国高齢者大会 於岡山市 1名参加	3.15	県職労壮年部総会 於ヴィラ中川 代表出席
9.1	会報第17号発行	~16	
9.11	9月定例幹事会		
9.14	県職労第68回定期総会 代表出席		毎月毎週火曜日に代表幹事、事務局長、幹事など2~3名で事務処理に当たっている
9.25	第1回「歴史教室」於自治会館		
10.4	第1回「歴史散歩の会」鎌倉方面		

しかし、いづれも猛暑という過酷な中の行事だけに参加には高齢者として一考を要することは確かである。また、会報は年四回発行することができ、当会の顔として好評を得ているよう

で、益々充実してゆく必要がある。県職労の買上げ協力を得て、在職者あて、全分会へ配布され、会のPRに役立させていただいている。

一九九二年(平成三年)度

活動方針(案)

○会の恒久的体制確立のための 財政基盤の充実対策

当会の発足以来、会員数が当初の八十余名から、ようやく五百名に達しようとしている。この間にあつて生みの親ともいえる県職労からは、毎年五十万円の助成を得、主として事務経費として充當させていただいている。これは、年利子五%として逆算すれば、壹千万円の元資に相当する。しかし諸般の情勢を勘案するとき、例えば会員数が増加しても、現在以上の助成を依存することは、難しいと思われるので、将来に向けて、一層の自助努力によって、事務経費充當に相当する元資的積立金を出来得る限り早期に確立する必要がある。

当面は会員五百名までは元資積立金一千万円、第二次的目標を設立十年以後に一千万として定期積立金を二千万円として事務経費を年間約百万円、利子から捻出するよう努力する必要がある。

このためには、終身会費会員の増加と経費の節減並びに幹事の献身的協力に願するのみである。

○「趣味の会」の充実と拡大について

「歴史散歩の会」が順調に実施されているので、本年は更に当会としても一層の直接的協力支援を行うこととし、また「趣味の会」充実のため、例えば「俳句」や「旅行」を楽しむ会など、「歴史散歩の会」以外にもう一つ程度「趣味の会」を発足させてみたい。

このため、各種「趣味の会」発足のための世話人会を開催し、十分討議の上、可能なものから発足させてみたい。

○壮年部との連携強化

「事業は人なり」といわれるとおり、当会の将来の成否を決定するのは、その運営を司る執行部役員の質と量にかかわる。

高齢者社会へ向けての退職者会の役員は、無限の重要性を秘めていて気付かない面が多い。

幸にも、県職労壮年部(旧中高年部)は役員の質量とも充実し、その企画事業には目を見はるものがある。

したがって、当会としても壮年部と従来より一層連携を強め、将来に於ける当会の担い手として評価と期待をもちつつ、壮年部の活動方針にもある「退職予定者セミナー」への開催や、横浜市従退

職者会等で成果をあげている「退職予定者の集い」を壮年部との共催で今後実施に向けて協議してゆきたい。

○その他：研修会・学習会の共催計画

過去何回か、研修会・学習会について提案し乍ら、担当幹事の病気などの事情により実施できなかったことが多くあった。

しかし乍ら、この企画実施は大切なので、本年度も、一部の会員から希望の多かった宿泊を兼ねた総会に代わるものとして、年金と歴史教室を含めた研修及至学習会を開催してみたい。但し、宿泊費等は一部負担をお願いすることになる。

○退職者会としての今後の検討課題

最近における未婚の男、女性の数が増加している。また、子供のいない夫婦もあり、老後に向つていわゆる「身寄りのない」ひとりぼちちの人達が増加している。

現在の中年のこれらの人達もいづれは、この孤独感に到達する。

在職中には家を持たず、老後になっても墓もなく、供養してくれる人もなしという深刻な問題が待ち構えている。

先見性をモットーとする当会として、県職労とも協議し、検討対策委員会を設置し、広く県、国に呼び掛けることは勿論、当会として面目躍如たる諸対策を示し本会の存在価値を高めてたい。

このほか、退職者の非常勤職員の使用に対する、人材有効活用などの面から要望書を当局へ提出することも検討すべきである。

相談は次の特別養護老人ホームで…………。

相談所名	所在地	電話
県立横浜第二老人ホーム	〒228 横浜市中区北2280	0468-48-1761
湘南ホーム	〒230-03 横浜市中区北405-100	0468-56-3220
シャローム	〒230 横浜市中区本木1-15	0468-42-1031
海湘ヶ丘老人ホーム	〒228-13 藤野区千代崎7-1	0463-88-4150
誠生園	〒221 藤野区横田原2-11-12	0466-33-1551
第二中心荘	〒232 藤野区市上柳本6-1	0462-31-7152
県立相模原老人ホーム	〒229 相模原市大野台5-13-2	0427-55-0301
潤生園	〒230 小田原市大瀬27	0465-35-9500
西湘老人ホーム	〒230 小田原市早川1555	0465-24-3395
瀬河原老人ホーム	〒235-01 足柄下郡瀬河原町瀬河原27	0465-63-2586

相談の受付時間は…毎日、いつでもお受けしています。

1990年(平成2年)度収支決算書

収入

支出

(1990.4.1~1991.3.31)

項目	予算額	決算額	摘要	項目	予算額	決算額	摘要	
1.会費	1,455,000	1,473,000		1.活動費	550,000	500,431		
会費	入会金	75,000	89,000	活動費	事務局費	250,000	406,511	事務用諸費
	年会費	220,000	214,000		行動費	300,000	93,920	交通費等
	終身会費	1,160,000	1,170,000		2.情報教宣費	500,000	494,626	会報4回
					3.総会費	300,000	145,500	
2.県職労助成金	500,000	546,410	助成金及び会報買上代	4.会議費	150,000	218,990	幹事会等交通費	
3.事業収入	220,000	372,234	火災共済事業手数料他	5.通信費	150,000	191,479	会員宛郵送料等	
4.雑収入	88,389	103,727	会報広告代、予金利息等	6.慶弔共済金	170,000	123,860	共済掛金等	
5.積立金取崩し	200,000	0		7.積立金	1,000,000	1,000,000	新規終身会費一部積立	
6.繰越金	436,611	436,611		8.予備費	80,000	0		
				次期繰越金	0	257,096		
計	2,900,000	2,931,982		計	2,900,000	2,931,982		

監査報告

収支証拠書類、預貯金通帳等について監査の結果
 妥当適切に執行されているものと認めます。
 1991年5月16日

監査 上野多恵子 印
 監査 本田安親 印

1991年(平成3年)度収支予算書

収入

支出

(1991.4.1~1992.3.31)

項目	予算額	摘要	項目	予算書	摘要	
1.会費	1,500,000		1.活動費	550,000		
会費	入会金	80,000	活動費	事務局費	400,000	事務用品、文書印刷
	年会費	240,000		行動費	150,000	事務経費、交通費等
	終身会費	1,180,000		2.情報費	600,000	会報編集、発行費4回
				3.総会費	350,000	100名×3,500円 懇親会費を含む
2.県職労助成金	500,000	各種集會、幹事会等交通費	4.会議費	200,000	幹事会、研修会等	
3.事業収入	240,000	共済事業他	5.通信費	200,000	郵送料、葉書、封筒等	
4.雑収入	102,904	会報広告代、預貯金利息等	6.見舞共済金	170,000	掛金450円×350名・事務経費	
5.積立金取崩し	300,000	終身会費積立金×1/20	7.積立金	800,000	新規終身会費積立	
6.繰越金	257,096		8.予備費	30,000		
計	2,900,000		計	2,900,000		

ひとりで悩まず、ご相談を 痴呆性老人介護相談所のご案内



痴呆性老人 介護相談所とは

在宅で痴呆性老人を介護しているご家族のために、経験豊富な特別養護老人ホームの専門の職員が介護について相談をお受けしています。



↑悪天候を気にして集まった方は参加予定者26名のうち15名でした。(大磯駅)

第二回「歴史散歩の会」
—大磯宿のロマンと史跡を訪ねて
カメラリポート



天が味方して大磯は雨も殆どなく、出発は↑一時間遅れたが出席者だけで決行
—高来神社前にて—



延台寺にて～曾我十郎の愛人虎御前と↑ゆかりが深い寺。



→三菱、岩崎財閥の娘として生まれた、沢田美喜さんは敬虔なキリスト教徒。敗戦後混血児約二千名を養育される。この沢田美喜記念館には徳川時代弾圧下のキリスト教徒のかくされた品々がある。



↑^{しげたつあん}鷹立庵にて

日本三大俳諧道場：漂泊の歌人。西行法師が立ち寄ったといわれる法師の木像や虎御前の木像などがある。写真左は坂田山心中の比翼塚、右は荒井講師の熱弁に耳を傾ける会員…



お知らせ 歴史散歩の会

◎ 第五回歴史教室

テーマ 鎌倉一階堂付近の史跡を訪ねて

会場 自治会館六〇一号室
日時 六月六日(木)午後一時三〇分から約二時間

会費 無料
解説 特別講師 荒井太郎氏

◎ 第三回歴史散歩

目的地 鎌倉二階堂付近の史跡の実地探訪
日時 十月を予定、いづれ決定次第歴史散歩の会の会員にはお連絡します。

コース 頼朝の墓・島津藩の祖・島津忠久墓・毛利藩の祖・毛利秀光墓・大江広元墓・覺園寺(寺らしい安らぎ)・白旗神社(法華堂跡)・荏柄天神社・鎌倉宮

参加者希望者は官製ハガキに住所氏名・電話番号明記の上左記へお申込み下さい。お家族の方も歓迎します。

〒231横浜市中区本町四丁目三七
県職労内退職者こだま会
歴史散歩の会係まで

こだま俳壇

投句大歓迎

世津子

競いあい 瀬を上りゆく 稚鮎群
水飛ばし 小さな背びれ 光る鮎
逆上る 光りに映える 稚鮎かな
青き水 流れさからい 鮎上る

歩く人ほど健康体

万歩計で調査 動脈硬化などに効く

一日に歩く歩数が多いほど、厚生省が国民栄養調査の中で初めて行った調査で明らかになった。歩行の効果は従来、言われていたが、今回の調査では実際、千五百人を対象に実施。万歩計で測定した歩数と、血圧値など

高血圧や便秘予防のほか動脈硬化防止に有効な「善玉」コレステロール(HDLコレステロール)を増やす効果があることが、

健康の関係が初めて数値で裏付けられた。

調査は三十歳以上の男女約七

との関係を調べた。それによると一人が一日に歩く歩数は年齢が高くなるにつれ減少、男女別では男性の方が女性よりも一割程度多く歩いていた。一万歩以上歩く人は男性で二・四％、女性で二・〇％いた。

歩数と血圧の関係では、歩数が増えるほど血圧が低い傾向がみられた。例えば、一日に二千歩未満の人の最高血圧は男性二四四、女性二四五に対し、二万歩以上になると男性一三四、女性一二九といった具合。

また、体に有益なHDLコレステロールの血液中の量も歩数が多いほど多い。二千歩未満の男性が血液一〇〇ミリ中四七・六ミリ、女性同五三・七ミリながら、一万歩を超えると男性五三・八ミリ、女性五九・八ミリに上がった。

緑茶で大腸ガン予防!? 京都府立医大と太陽化学が確認

食品素材メーカーの太陽化学は、緑茶に含まれるポリフェノール類が大腸ガンを予防する効果のあることを動物実験で突き止めた。京都府立医大の高橋俊雄教授らとの共同研究による成果で、京都市で開く日本農芸化学会で詳細を発表する。

四年前から研究に取り組んでいた。実験ではラットに発がん剤のアゾキシメタンを投与した後、ラットを三グループに分けた。アゾキシメタンを投与せず、同じ条件で飼育したラットにはいずれも大腸ガンは発生しなかった。

ラットに抽出物投与 発生率は大幅に低下

に分け、二グループには飲み水の中に緑茶抽出物のポリフェノール類をそれぞれ〇・〇％、〇・一％、〇・二％加えて与え、ほかの一グループは水道水だけで飼育した。

この結果、水道水だけのグループでは大腸ガンの発生率が七・七％だったのに対し、ポリフェノール類〇・〇％のグループは三八％、同〇・一％のグループは四八％と低かった。

こうした結果から、同社は「ポリフェノール類を主成分とする緑茶抽出物が大腸ガンの予防に有効なことが示唆された」と判断、今後はポリフェノール類の予防メカニズムの解明に取り組む計画。



新聞・雑誌 切抜控帖

「血セン」を防止するニンニク 血小板の凝集妨げる働き

名大農学部・川岸教授らが裏づけ

ニンニクや玉ネギを食べると、とても元気が出てくるような気がする。

血液が血管内で固まって詰まる「血セン」は、心筋コウクや脳コウクなどの原因になるが、ニンニク、玉ネギ、アサツキなどの中に血液を清らかにして、血センを出来にくくする作用のあることが、名古屋大学農学部の川岸舜朗教授(食品有機

化学らの研究で裏づけられた。血センは血液の成分の一つである血小板が凝集して起きるものだが、体内では血小板凝集因子(TXA2)と、血小板の凝集を阻害するPGI2と呼ばれる

生理活性物質が絶妙にバランスを取っている。

しかし年をとると、このバランスが崩れてPGI2の生成が抑制されて血センが起りやすくなる。

川岸さんらは、ネギ属の野菜が血小板凝集を阻害する程度を調べた。そのうち、特に作用が強力だったニンニクから、新たに三種の物質を確認した。中でもアホエンという物質は、最も強力な活性を示した。

玉ネギからも各種の活性物質が見つかった。その一つは、代表的な抗炎症剤であるインドメタシンやアスピリンよりも血小板凝集を抑制する作用が強かった。

この活性物質はニンニクや玉ネギを切ったり、擦りおろしたりする時に出来るものだった。

このほか、まだ特定されていないもの、ホウレンソウ、カブ、シシトウ、アスパラガス、トマト、果物のメロンなどにも同じような抑制作用があることが分かっていた。

さらにはクローブ、ナツメグ、シウガ、シナモンなどの香料も同様な性質を持っているようだ。ふだんの食べ物が、知らず知らずのうちに生理機能を活性化したり、恒常性の維持に役立つっているのだ。「これからは化学的根拠から食品を選択する時代になるだろう」と川岸さんは話している。

他山の石

第19回横浜市従退職者会総会に

出席して学んだこと



て出席させていただいた。あいにくの豪雨の中、午前中の開催にも不拘、会員約一五〇名中約三百名の会員が出席、横浜市職員OBならではの地域に密着した総会であるというのが第一印象であった。出身支部単位の受付けに始まり、総会後の懇親会も支部単位という出身母体を中心としたガッチリとした結び付きがうかがわれる。

「趣味の会」にも力を入れ、「歴史散歩」、「俳句を楽しむ会」、「きりえ」、「手芸」などのセミナーが開設されている。

また、現職市従中高年部との共催による「退職予定者の集い」は会員加入への対策として成果を上げているようで、当会としても、活動方針として取り入れる価値があると感じた次第である。

(K)

第十四回 壮年部総会

とき 三月十五〜十六日 ところ ヱイラながわ



第一日は午前十一時開催、90年度の経過報告と91年の運動方針提案で午後は、昼休には稲本春雄氏の居合抜きのみならず、夕食後記念レク大会(ボーリング、囲碁、将棋、カラオケ、卓球)で楽しむ。

第二日は、早期散策次いで前日の討議まとめと採択、新役員選出で無事閉会。

この会に出席して感じたことは、とにかく企画力旺盛で総会を楽しめるものによくしようとする意欲が感じられたし、また、活動方針にも当会と共催によるセミナーなど期待したいことが多く、関心を高めた。

それと、役員を始め会員の中には、「当退職者こだま会」のこれからの担い手である役員候補が多士済々で力強く感じた。

(K)

『本年度退職予定者の集い』

現業職員並びに県職労湘南支部の主催で開催される

現業関係の本年度「退職予定者懇親会」が、二月二十二日(金)、また、県職労湘南

支部主催の「退職者の集い」が、三月二

十二(金)日それぞれ関係者の骨折りで箱根 嶺水苑及び平塚市内で開催された。

当会からはご連絡を受け、現業には川

村幹事が、湘南支部には串田幹事が出席、当会の特色を説明し、入会への期待をのべた。

参加者は、現業、湘南支部ともそれぞれ約三〇名であった。

編集・発行者 県職労本部内
退職者こだま会
発行人 児玉欣一郎
発行日 1991. 6. 1

No. 20

横浜市中央区本町4〜37
TEL 045-212-3179(直通)
045-201-1111
(内線7953)